

研究課題 (テーマ)	看護学生のオムツ交換による排泄物を介した療養環境汚染の実態		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	富山県立大学看護学部	准教授	三善郁代
分担者	富山県立大学看護学部	講師	鷺塚寛子
	愛知医科大学看護学部	准教授	長崎由紀子
研究結果の概要			
<p><b>【背景】</b> オムツ交換は、陰部洗浄などの清潔援助と一緒に実施されることが多いため、清潔・不潔の判断が曖昧となり汚染拡大の可能性が高い難易度の高い技術といえる。看護学生は、演習や臨地実習を通して感染拡大しない个人防护具の着脱や手指衛生の適切なタイミングを学んでいく。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって教育環境が変化しつつある。よって、低学年の基礎看護学教育の段階から感染防止技術が定着するような教育方法の検討が必要と考える。</p> <p><b>【目的】</b> 看護学生が実施する臥床患者のオムツ交換の援助技術を観察し、排泄物を介した患者の身体や寝衣、周辺環境の汚染状況を把握することを目的とする。そのために観察に用いるビデオ映像の分析について「看護ケアの手順、个人防护具の着脱や手指衛生のタイミング、対象者の手指が触れた部位と接触頻度」を基に要素を抽出し、チェックリストを作成する。共同研究者によるビデオ撮影を通してデータ収集を行い、チェックリストの妥当性を検討し、分析の視点を明確にする。</p> <p><b>【方法】</b> ①「看護ケアの手順、个人防护具の着脱や手指衛生のタイミング、対象者の手指が触れた部位と接触頻度」を基に、学生が行う臥床患者のオムツ交換のケア技術において、患者の身体や寝衣、周辺環境に対して実施する可能性がある行為を抽出しチェックリストを作成する。</p> <p>②大学実習室のベッドに臥床している模擬患者のオムツ交換を研究者が実施する様子について、2方向および実施者の視点からビデオ撮影する。患者はオムツ内に排便している設定とし、模擬便には蛍光塗料を混ぜておく。</p> <p>③終了後にブラックライトを用いて、模擬患者の身体や寝衣、シーツやベッド・ワゴンなどの周辺環境の蛍光塗料の付着部分の写真撮影を行う。蛍光塗料の付着部位と撮影動画を照合させながら汚染した行動の要因を抽出し、チェックリストの修正を行う。</p> <p><b>【結果】</b> 原案のチェックリストは使用前に研究分担者に内容妥当性の検討を依頼した。オムツ交換の一連の援助についてビデオ撮影を行った後、撮影されたビデオ映像を見ながら、チェックリストを使用し、ケアプロセス、実施された个人防护具の着脱や交換、手指衛生をチェックし、観察のポイントを確認した。その後、援助を行う際に行った行動と蛍光塗料の付着部位の写真撮影結果から、観察の精度を確認した。その結果、原案以外の行動および汚染部位が確認されたため、再度チェックリストを修正し確定した。</p> <p>※なお、本研究は看護学部教員5名を対象として予備調査を行ったうえで、富山県立大学看護学部2年次生10名（生活援助看護技術の単位習得者）に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施を見合わせている。</p>			
今後の展開			
<p>新型コロナウイルス感染症を拡大させないよう対策を講じたうえで、実際に看護学生と教員を対象とした対面での調査を再開する。データ収集を終え次第、分析を進める。得られた成果は、学会発表や論文投稿を目指す。</p>			